

豊川における水防災意識社会を再構築するための取組方針骨子

1. 平成 28 年 9 月 2 日、豊川において、国、愛知県、沿川 3 市（豊橋市、豊川市、新城市）が一体となり、関東・東北豪雨災害の教訓を踏まえ、「施設では守り切れない大洪水は必ず発生する」との考えに立ち社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するための取組方針を策定し、取組みを実施する。
2. これまで、国などの河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画に基づき、洪水を安全に流す等のハード対策とソフト対策を実施してきた。今回の取組方針の策定にあたっては、地域の自治体の首長等が参加し、氾濫することを前提とした想定最大規模の洪水に対する減災にも資する取組みとして、着実なハード対策の推進と合わせて、避難などソフト施策に重点を置きとりまとめた。
3. 豊川流域は、東名高速道路、東海道新幹線等、産業経済の根幹をなす交通の要衝であり、豊橋市、豊川市、新城市は、工業化、宅地化が進んでいる。平成 13 年に策定された豊川水系河川整備計画では、設楽ダムの建設、霞堤及び支川の改修等を主に進めている。霞堤地区では 2～3 年に 1 回の割合で浸水が発生している。また、豊川流域の地質特性により、豊川では降雨による洪水流出が短時間となるため、水位の上昇は急激である。そのため、住民の的確な避難に必要な情報の提供・周知する必要がある。
4. 発生頻度が高い洪水（高頻度洪水）から想定最大規模の洪水（想定最大規模洪水）まで、発生頻度・被害規模が異なる洪水を考慮し、洪水から流域住民の命を守る「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指す取組みを、平成 32 年度までに国、愛知県や水防活動、避難勧告の発令等を担う沿川市が一体となって行う減災の取組方針をとりまとめる。
5. 具体的には
 - (1) 逃げ遅れゼロに向けた取組み
 - 1) 豊川の歴史、自然、防災知識の普及の取組み【高頻度洪水・想定最大規模洪水共通の取組み】
 - 2) わかりやすい情報提供等【高頻度洪水・想定最大規模洪水別の取組み】
 - 3) タイムラインの作成 他【高頻度洪水・想定最大規模洪水別の取組み】
 - (2) 社会経済被害の最小化を目指した取組み
 - 1) 洪水を河道内で安全に流す対策【高頻度洪水に対する取組み】
 - 2) 堤防の強化【高頻度洪水に対する取組み】
 - 3) 水防活動の強化【高頻度洪水に対する取組み】
 - 4) 河川防災ステーション及び防災拠点等の整備【高頻度洪水に対する取組み】
 - 5) 危機管理型ハード対策【高頻度洪水・想定最大規模洪水共通の取組み】
 - 6) 流域住民と協働した河川の治水機能等の
保全の取組み【高頻度洪水・想定最大規模洪水共通の取組み】
 - 7) 排水計画・復旧計画の検討【想定最大規模洪水に対する取組み】
6. 毎年出水期前に関係機関が一堂に会し、進捗状況を共有するなどフォローアップを行い、水防災意識を高めていくこととしている。